

## 小学校6年 放送教育のよさを生かした1人1台端末の活用

さいたま市立浦和別所小学校 石川 秀治

## 【実践報告の概要】

GIGA スクール構想により、1人1台端末の活用が進んでいる。一方、自治体によって導入しているアプリが違うため、それらを活用したよい実践を参考にしようとしても同じようにできないこともある。しかし放送番組はどの端末でも同じように「わかりやすい」「自分らしく学ぶことができる」「みな同じ舞台に立って考えることができる」「学ぶ喜びを味わうことができる」といったよさを生かすことで、アプリの違いを越え、より効果的に1人1台端末を使うことができると考え、実践を行った。

## 【取組の具体】

活用番組『歴史にドキリ』

6 学年社会科 小単元「全国統一への動き」

## 単元計画

| 時           | 学習活動   | 『番組』『アプリ』                                       |
|-------------|--|---|
| 1           | ○番組を視聴、視聴後の対話から歴史的事象等を関連付けて捉える<br>○学習問題を設定する   | 『武田信玄・上杉謙信』                                     |
| 2           | ○「長篠合戦図屏風」をもとに、戦国時代の戦いの様子について考えたことを伝える         | ミライシード「オクリンク」                                   |
| 3           | ○番組を視聴し、話し合う                                   | 『フランシスコ・ザビエル』                                   |
| 4<br>～<br>6 | ○番組を視聴し、話し合う<br>○3 武将のうち、誰がこの時代の MVP と考えるか決定する | 『織田信長』『豊臣秀吉』『徳川家康』<br>+NHK for School<br>クリップ動画 |
| 7           | ○選んだ人物について投票し、その理由を記入して伝え合う<br>○学習のまとめをする      | ミライシード「ムーブノート」                                  |

## 番組視聴と学習問題設定

番組視聴から、登場人物と時代背景や時代の変化等を捉え、学習問題「戦国の世の中となり、時代はどのように変わっていったのだろうか」を設定する。

## アプリの機能活用

児童は番組を視聴すると、①自分なりに理解する→②学級での対話により、理解を確かなものにしていく、となる。そのようにわかったことをもとに資料を見ると、より多くのことに気付くことができる。そこで「長篠合戦図屏風」の全体図を6つに分割・拡大し、ミライシード「オクリンク」(プレゼンテーション向き)に送信。自由に書き込ませる。

## 番組視聴をもとに深めた考えの交流

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3 武将について、番組を視聴。さらに関連するクリップ動画を各自視聴するなどして、この時代の MVP を根拠をもって決定、説明できるようにする。意見は、ミライシード「ムーブノート」(コミュニケーション向き)で交流する。

「ムーブノート」に送られた意見 (一部)

今につながる文化を作った時代の第一者だから。  
 戦場に仕えてきた時からしりしりと地位を上げ、天下を取るまで行った戦国武将。  
 しっかりした幕府の組織の仕組みをつけたこと。  
 200年以上の時代を続けたから、徳川の一族がすごい。

徳川の戦国大名の戦いでは、地形を利用したり、鉄砲を大量に使用したりして、自分の支配する国では、商人が自由に商売できるようにするために、家来軍を行ったり、人々が自由に行き来できるようにするために、交通のさまたげになる場所をなくしたりするなど、様々な工夫をして、天下統一まであと一歩のところまで進めたから。

豊臣秀吉は、天下統一を成し遂げた人物です。1582年に織田信長が死された後織田信長の後継者となりました。そのときに、豊臣秀吉は、三法師を後継者にしようとした。そのため、徳川家康と対立したため1584年小牧長久手の戦いがおこり、秀吉は勝利。勝った秀吉は、1585関白となり翌年太政大臣になりました。そのあと、一揆を防ぐため刀狩令をだし石高を調べるため太閤検地1592と97に朝鮮侵略を、伏見城！！

幼いころから家康は辛抱強く判断力も備わっていてその判断力で江戸幕府を作れたと思います。あと、主従など関係が深かった家康の領地二河の国で起きた一向一揆の時家康の家来がいて、それを見た家康が一揆へ駆けつけると家来たちはみんな連れていきました。このように家康はいろいろな人みんなに尊重されていたからです。

## 【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組『歴史にドキリ』

- 歴史上の人物を軸にした番組構成。児童は、中村獅童さん扮する歴史上の人物に感情移入するなど、その人物についての関心をもち、対話しやすい。
- 映像により歴史的事象と人物を関連付けて捉えられる。
- 「ドキリソング」を口ずさむなど、楽しみながら自然に要点を記憶に残すことができる。
- 「ドキリポイント」で要点を再確認できる。

## 【本実践における工夫点等】

## 番組は全て・丸ごと視聴する

放送教育のよさである「わかりやすさ」「自分らしく学ぶことができる」等を生かす。番組を分断するのではなく、丸ごと視聴することによって、関連付けて捉えられることを大切にする。また、放送される番組は全て視聴する。視聴後「わかった！」から学習をスタートし、対話を通して理解を深める。

## 1人1台端末を生かす

番組視聴を学習の入り口とすると、全員が同じ舞台で、自分らしく考えることができる。そこを土台とし、アプリの機能を生かして学習を進める。

## ○拡大機能と書き込み

プレゼンテーション用のアプリ「オクリンク」を使って資料を拡大し、細部まで捉えたり、資料に書き込んだりして、自分の視点や気付きを示す。

## ○コミュニケーション (対話・交流)

全員が自分の考えを送り、それぞれが根拠をもって自分の意見を記述する。また、友達の見解を読むことや、コメントを送って交流することで、新たな視点に気付いたり、考えを深めたりする。

## 【本実践の成果と課題】

○番組を全て視聴したことや、クリップ動画を視聴したことで、その人物を理解すると共に、客観的に人物を選択し、自分の意見を書くことができた。

○番組視聴が土台となり、「ムーブノート」を使うことで、全員が根拠をもって自分の意見を示し、他の子の意見を読むこともできた。また、コメントを送り、交流を通して理解を深めるなど、対話的な学習を行うことができた。

△小単元の中で実施するには学習活動が多く、じっくり取り組めないことがあった。担任、児童共に操作に慣れることで解消できると考える。